

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	ライカイ・ジョンボル・ティボル RAJKAI ZSOMBOR TIBOR	所属・職名 本グローバル COE・研究員
e-mail		
発表題名 (英語)	非西欧文化圏の家族社会学テキストにおけるパラダイム転換をめぐって ——ハンガリー、中国、台湾、日本を事例として—— (Paradigm Shifts in Non-Western Family Sociological Textbooks? Taking Hungary, China, Taiwan and Japan as Case Studies)	
著者名	ライカイ・ジョンボル・ティボル	
会議名 (英語)	アメリカ社会学会 2009 年度年次会議 (American Sociological Association 2009 Annual Meeting)	
開催地(国、市)	San Francisco, CA, USA	
参加期間	2009 年 8 月 8 日 ~ 8 月 11 日	

報告者は、最終日 8 月 11 日に「家族社会学」(Sociology of the Family) 部会内の、ラウンドテーブルセッション「非西欧的文脈における家族」(Families in Non-Western Contexts) において報告をおこなった。ラウンドテーブルセッションは、大きなホール内に数多く置かれている円卓を囲んでおこなわれる。3-4 人の発表者と 1 人の司会者を中心として、それぞれのラウンドテーブルセッションが平行しておこなわれる。他の円卓の発表は聞くことができないが、同じ円卓の報告者・司会者により密接なコミュニケーション、ディスカッションを行えるという魅力もある。

今回、司会は、ネパールの女性労働者で博士号を取得した South Utah 大学の Shobha Hamal Gurung 教授。他の報告者の報告内容は、エジプトにおける DV に賛同する女性 (Yount & Li : Emory 大学)、インドの男児選好と女性のエンパワメント (MacQuarrie : ワシントン大学)、ベトナム・ハノイにおける人種間関係 (Thi-Kieu-Vu : ベトナム国立大学)、そして日本における初婚のタイミングに兄弟姉妹関係が与える影響 (Suzumi : ジョンズ・ホプキンス大学)、であった。

報告者の報告内容は、博士論文テーマでもある非西欧圏の家族社会学テキストの分析についてであり、具体的には、4 つの非西欧文化圏社会 (ハンガリー、中国、台湾、日本) を事例とし、家族社会学のテキスト作成・言説的モデル作成とパラダイム転換のありようについて発表をおこなった。家族社会学におけるパラダイムの概念は T.クーンが主張したパラダイムと異なる意味をすることを明確にした上で、パラダイム転換の進み方もクーンのパラダイム転換論と異なっていることを指摘した。

質疑では、日本の事例についての 2 つの報告に注目が集まり、日本におけるお見合い結婚・恋愛結婚、離婚問題、平均子ども数などについて、質問と議論がなされた。日本の晩婚化問題を兄弟姉妹の仕組みから検討した Suzumi 報告の、「家制度意識が依然として存続しているが、その一方で長男は結婚しにくくなっている」という研究結果は、日本の(脱)近代化を研究している報告者自身、また本 GCOE にとっても非常に興味深い議論である。時間的制約もあり、個別の質疑は限定

学会発表渡航支援報告書

的であったが、エジプト、インド、ベトナム、また中国、台湾、日本とハンガリーといった七つの社会を事例として、ジェンダー研究や「人種」問題に関する調査研究と、パラダイム研究が報告され、まさに「非西欧文化的文脈における諸家族」に関する総合的なラウンドテーブルセッションとなった。報告者自身にとっても、来年予定している世界社会学会議やヨーロッパ社会学会議での報告に向けて、東アジア地域の家族変動・家族主義についてより多角的な観点から研究を進めるための貴重な機会となった。

